



HOPE FOR project

「より良い復興」の実践的な取り組みと今後の方向性

Tomoyuki Takayama

World BOSAI Forum / IDRC2017 in SENDAI

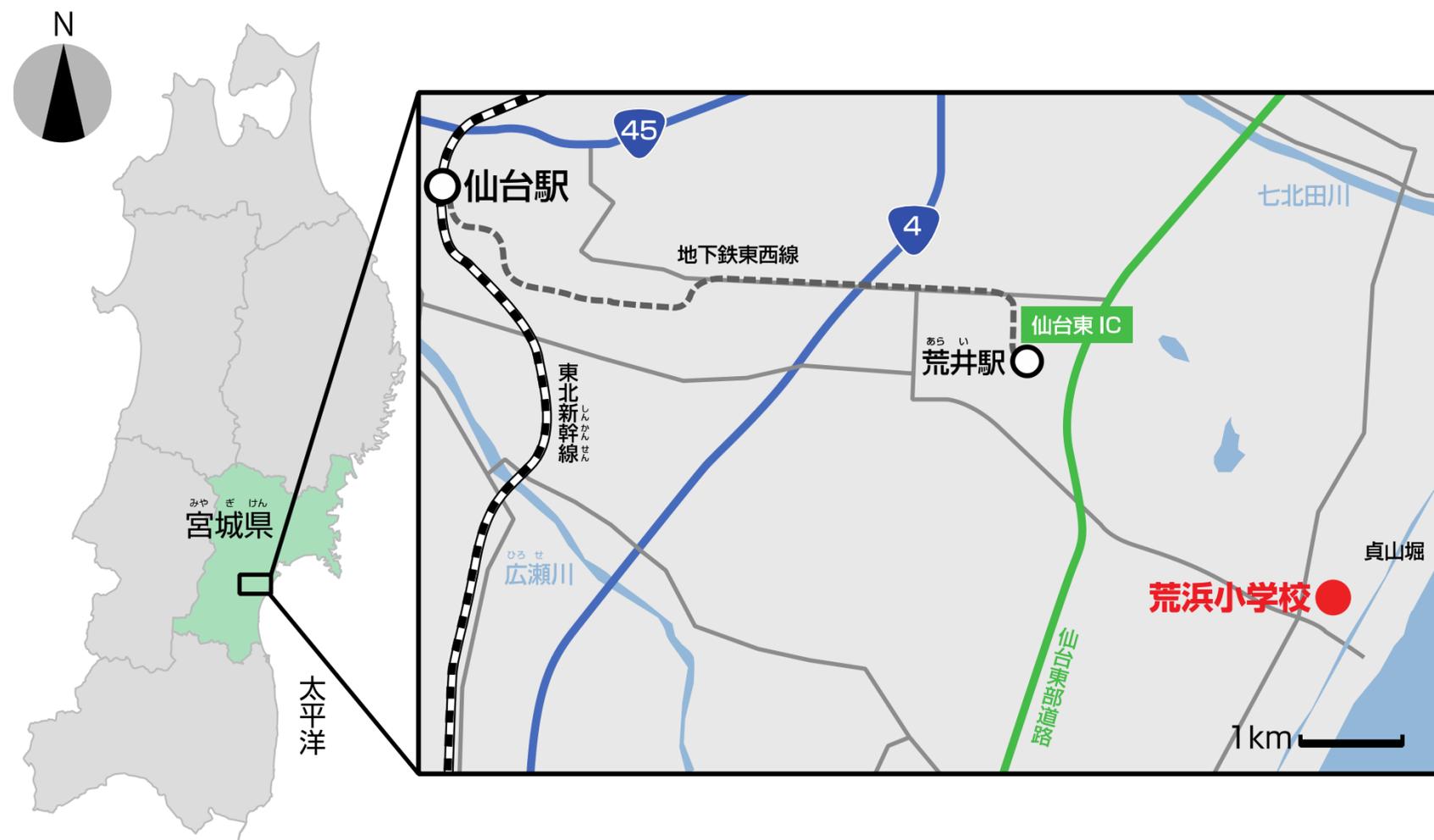
仙台市若林区荒浜地区

荒浜地区は、仙台市中心部から東に約10km離れた太平洋沿岸部に位置している。

震災後の2012年12月に災害危険区域に指定。

区域内に住まいを所有していた約800世帯の住民は、「防災集団移転促進事業」として内陸部へ集団移転。

1873(明治6)年創立の荒浜小学校は、海岸から700m内陸に位置し、震災当時は91名の児童が通っていた。





震災前の荒浜地区

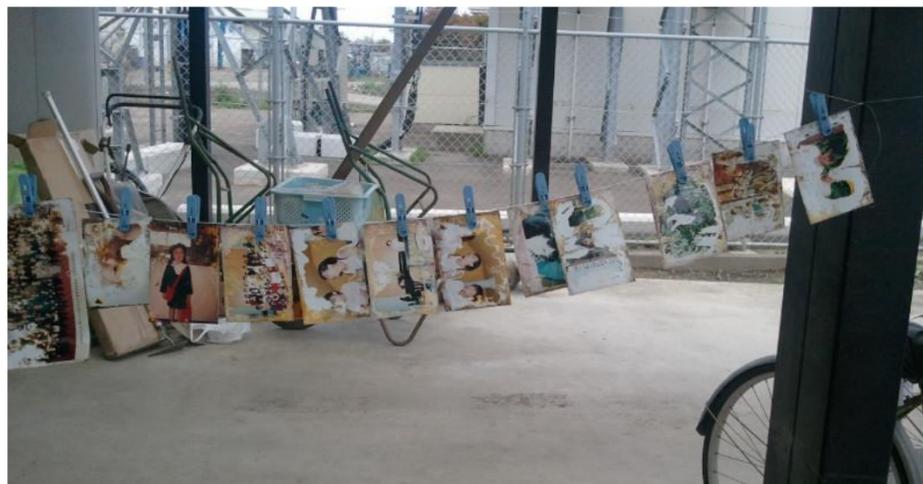
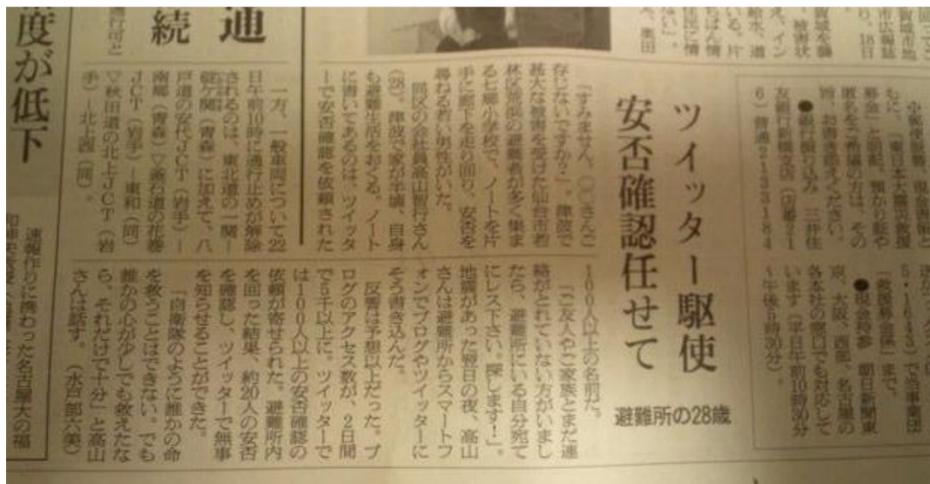
約800世帯2200人が住む集落。

仙台市唯一の海水浴場として年間約4万人の海水浴客で賑わっていた。



震災後の荒浜地区

津波により街の殆どが流出。死者行方不明者、約190名。



安否確認

罹災写真の回収

震災の翌日より避難所となった七郷小学校にてSNS(Twitter)を使った安否確認を始める。延べ100人以上の安否報告。日が経つに連れて無事を報告出来る回数が減り、見ず知らずの方へ訃報を届けることに戸惑いながら安否報告を続けた。

その後、荒浜地区周辺に野ざらしになっていた写真を回収、後に写真返却会が行われた。現在も荒浜の方が代表を務める特定非営利活動法人「おもいでかえる」として、継続的な活動が行われている。



HOPE FOR project

2012年3月11日、荒浜地区に訪れた1,700人の方々と花の種を入れた風船を荒浜の空へリリース。翌年以降の3月11日に同企画を実施する他、灯りのない街を灯すキャンドルナイト、かつては学び舎だった荒浜小学校の音楽室を使用しての音楽イベントを実施。



震災から学び舎として使われることがなかった荒浜小学校。
もう住むことは叶わない郷里へ帰る人を迎え入れる場所、
沿岸部に思いを寄せる人が過ごせる場所として。

HOPE FOR project





せんだい×荒浜 ウィークエンド

2013年8月17日、18日の2日間に渡り、東北大学スクール・オブ・デザイン社会軸との共催企画として、「せんだい×荒浜ウィークエンド」をサンモール一番町商店街、荒浜小学校にて実施。荒浜の「過去・現在・未来」に関する映像をアーケード壁面に投影する他、荒浜地区で農の再生に取り組む方や、継続的に活動を行う方を招き今後の姿について、市街地で活動される方とのトークセッション等を実施。

防災集団移転跡地利活用

沿岸部の災害危険区域内において防災集団移転促進事業として、市が買い取った土地の利活用方針の検討が開始。荒浜地区は約40ヘクタールの広大な土地の在り方が問われている。

昨年、元地域住民(震災当時16歳～80歳)の方々へヒアリングを行い、利活用事業に対して思うこと、荒浜の思い出等、等身大の声を聞き歩いた。

思い出があった場所を地図上にプロットしていく「記憶マップ」を作成。

未来への記憶マップ「荒浜」 アンケートシート

荒浜に思い出を持つ多くの方々の記憶を地図に重ね、見えないが今もそこに存在している荒浜の土地の記憶を可視化することを目的に「未来への記憶マップ「荒浜」」を製作しています。
あなたの思い出に残っている場所を地図に記入し、その場所に残っている思い出を教えてください。ご協力よろしくお願い致します。

④海：セブンイレブンでおでんを買って堤防に座って食べていた。
実家が夏に海の家をしていた。初日の出にも行ってたし、いつも海にいたから海に帰りたくなって気持ちがある。
堤防のところに座っているのが好きだったから、思い出す訳じゃないんですけど、帰りたくなるというか・・・
海に行くときちょっと怖い。堤防までは行くけど波に入るのは怖い。
海の家またやりたいな。松林がないからあんなに夕陽が見れるとは思わなかった。

⑤海野豆腐店：幼いころ買いにいくと一つオマケしてくれた。
焼き豆腐とかをお正月に向けておばあちゃんたちが作るので、おつかいで行って、家に着いてから袋を見ると一つサービスしてくれていた。お子様サービス。油揚げのお吸い物をよく食べていた。

⑥松林：金茸を(キンタケ)取ってきのこご飯にして食べた。

⑦伊勢公園
小6の頃タイムカプセルを埋めて、いつかの3月27日開けようと同級生と話していた。
津波で流されて結局あけられなかった。

記入日 平成 28 年 12 月 13 日

1. 地図に思い出の場所をプロットしてください

2. あなたの思い出を教えてください。(短くても、些細なことでも構いません。)

④海：セブンイレブンでおでんを買って堤防に座って食べていた。
実家が夏に海の家をしていた。初日の出にも行ってたし、いつも海にいたから海に帰りたくなって気持ちがある。
堤防のところに座っているのが好きだったから、思い出す訳じゃないんですけど、帰りたくなるというか・・・
海に行くときちょっと怖い。堤防までは行くけど波に入るのは怖い。
海の家またやりたいな。松林がないからあんなに夕陽が見れるとは思わなかった。

⑤海野豆腐店：幼いころ買いにいくと一つオマケしてくれた。
焼き豆腐とかをお正月に向けておばあちゃんたちが作るので、おつかいで行って、家に着いてから袋を見ると一つサービスしてくれていた。お子様サービス。油揚げのお吸い物をよく食べていた。

⑥松林：金茸を(キンタケ)取ってきのこご飯にして食べた。

⑦伊勢公園
小6の頃タイムカプセルを埋めて、いつかの3月27日開けようと同級生と話していた。
津波で流されて結局あけられなかった。

3. あなたの基本情報を教えてください

性別：女 年齢：22歳 現在：蒲町

居住区(旧)：※下記該当するものを○で囲んでください

東区 西区 南区 北区 新町 石場

荒浜以外()

<(仮)未来への記憶マップ「荒浜」製作委員会>

送付先：FAX 022-398-9049 / Email mirai.eno.kioku311@gmail.com

※記載された内容は展示等で公開する場合があります。





震災遺構荒浜小学校



今年の4月30日に「震災遺構」として一般公開。

津波は校舎2F(地上から4.6mの高さ)まで到達。

震災当時320名が避難。

(生徒71名、教職員16名、地域住民223名)

校舎の被害状況や被災直後の様子を伝える写真や映像から津波の脅威を実感、
それにより防災・減災の意識を高めることを目的としている。

入館者数

累計 43,300人(平成29年9月末時点)

平均 約350人/日

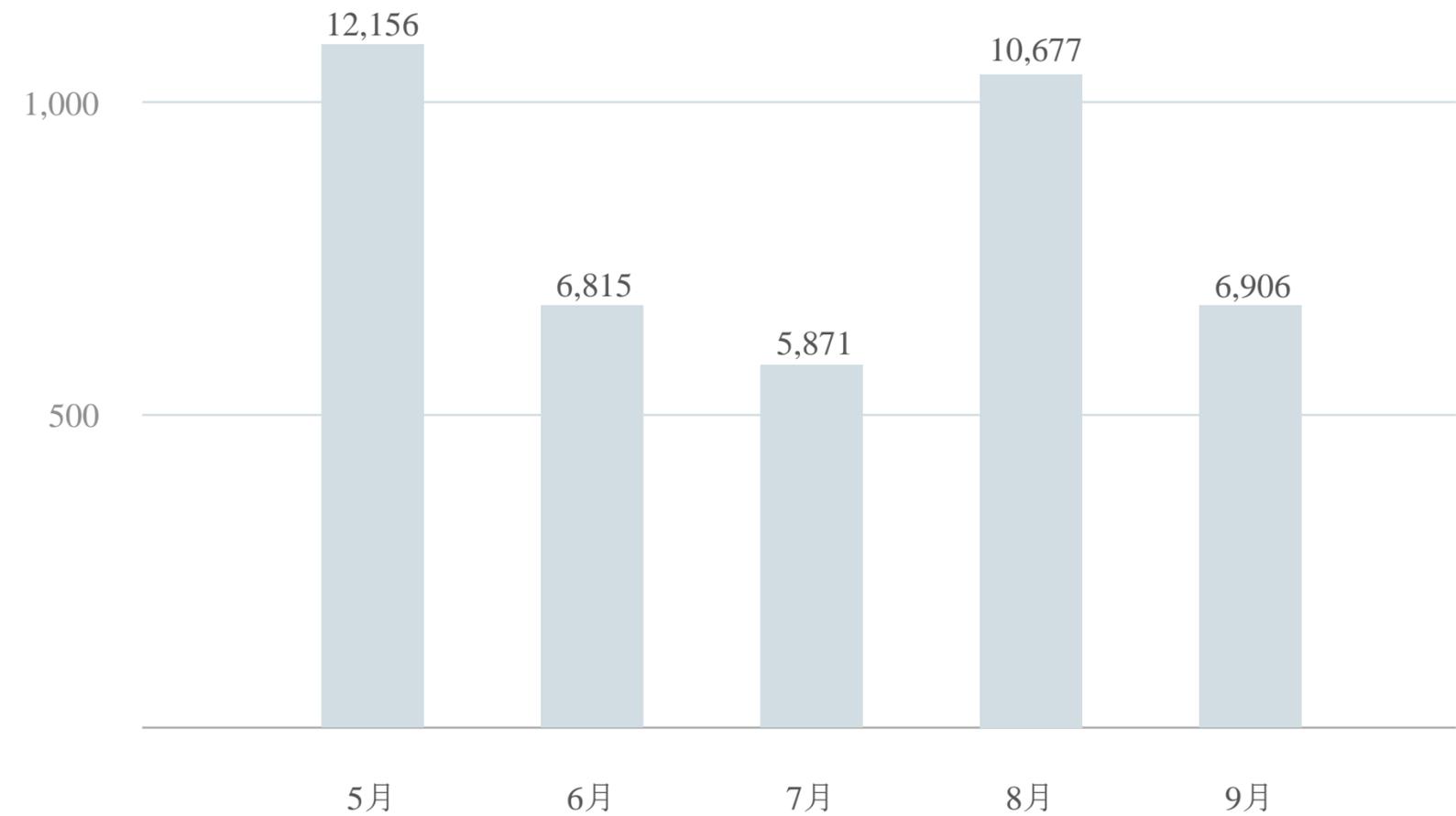
来館者属性

団体(NPO、任意団体、町内会、宗教法人等)

教育関係(校外学習、修学旅行、大学ゼミ等)

企業(視察、研修等)

その他(国、地方公共団体、地方議会、海外要人、個人グループ等)



Build Back Better

被災地域の市民活動

- ・市民協働の在り方、行政との連携

震災遺構、メモリアル施設の在り方

- ・震災遺構としての荒浜小学校、地域の方々の思い出の場所としての小学校の在り方。
- ・仕事としての震災遺構、メモリアル施設。

今後の経験と継承

- ・声なき声を持つ人たちとの関わり方

これからの人へ「帰結」していくこと